令和6年度　青森県立八戸西高等学校　スポーツ科学科第3学年
八戸学院大学高大連携特別授業「卒業研究事前学習」

実施年月日： 令和6年5月28日（火） 5･6･7校時　12:45～15:20

実 施 場 所： 本校「情報処理室」

概　　要： 専門科目「体育」の授業及び部活動等のスポーツ活動を実践する過程で学習した内容をもとに、自らがテーマを設定し卒業研究を行うにあたり、事前学習としてスポーツに関する研究の進め方について講義を受け、今後の卒業研究をより良いものとするための学習を実施。

講　義　「スポーツ系の研究について」

休　憩　（10分）

添削指導　「各自の研究テーマ･研究の進め方」

※今年度は、高大連携が始まったことから、大学生も本校に来校。
大学生から高校生への助言指導も実施した。

講　　師： 八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科　講 師　泉 水 朝 宏　氏

スポーツ科学科生徒の感想

甲地 功徳（東北中学校出身･硬式野球部） 卒業論文の事前学習を通じて、自分自身の研究能力や論理的思考力を向上させることができました。研究内容や分析、卒業論文の構成などについてのアドバイスをいただき、より深く正確にデータの分析をする事に繋がると感じました。今後は、この経験を活かして、物事に対して、疑問を持つことや疑問を解決する事に活かしていきたいと考えています。継続的な学びを、これからの研究や大学での学びに繋げていきたいと思いました。
若本 伊吹（名川中学校出身･弓道部） 卒業研究の事前授業を通して，情報収集能力や課題解決力の大切さを理解する事が出来ました。研究を進めて行くにあたって既存の事実をただ単に書き起こすのではなく，自分の主観からしっかり言い切りの文で書く事を目標にしていきたいです。

泉水朝宏講師（中央）から卒業研究へのアドバイスを受ける生徒たち

スポーツ論文「いろは」学ぶ

八戸西高卒業研究事前学習

八学大講師、作成手順指導

青森県立八戸西高（坪宏至校長）は28日、同校でスポーツ科学科3年生38人を対象とした卒業研究事前学習を行った。高大連携協定を結ぶ八戸学院大からスポーツが専門の講師を招き、講義や添削指導を通じて生徒が研究活動の「いろは」を学んだ。（上條哲洋）

同科の3年生は1年かけてスポーツに関する卒業論文を完成させ、年度末に発表する。テーマは自身が取り組むスポーツや、興味のある分野など自由に設定し、情報を収集、分析している。

両校は今年2月、教育に関する交流・連携を図る高大連携協定を締結。今回は協定を生かし、同大人間健康学科の泉水朝宏講師（41）と、ゼミ生の同科4年の山田林華子さん（21）が指導を担当した。

前半の講義では、泉水講師が研究のプロセスや論文の作成手順、テーマの決め方など「研究でもPDCAサイクルが大切。計画と評価を繰り返して」「先行研究や既存の事実を知り、ベースにする必要がある」などと呼びかけた。

後半は泉水講師と山田さんが論文を執筆する生徒に1人ずつ声をかけ、悩みや改善点について助言した。

硬式野球部の甲地功徳さん（17）は「ウエートトレーニングで野球の打撃の飛距離が伸びるか」をテーマに設定。泉水講師からトスする人を固定することやトレーニング内容の明確化をアドバイスされ、「条件の違いをなくし、正確な実験結果を出せるようにしたい」と意気込んでいた。

令和６年６月１日　デーリー東北に掲載されました。